

CASIO CORPORATE REPORT 2010



CASIO

カシオ計算機株式会社
<http://casio.jp>



カシオ計算機株式会社は
印刷サービスのグリーン
購入に取り組んでいます



本報告書の用紙は、適切に管理された森林から出荷された材を含むFSC
森林認証紙を使用し、アメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用し、水
無し印刷をしています。



特集
進化する腕時計
G-SHOCK



CASIO

経営理念

創造 貢献

カシオの経営モットーは「創造 貢献」です。それまでにない斬新な働きを持った製品を提供することで、社会貢献を実現するという意味です。

新しい働きを持った製品は、多くの人の生活を助け、社会を進歩させます。あるいは多くの人に楽しみをもたらす、新しい文化を生み出す源となります。新しい製品が普及すれば、そこには新しい市場が生まれ、さまざまな周辺産業が育ちます。カシオはこのような、製品やサービスの提供を通じて、さまざまな側面から社会に貢献したいと考えています。

■ CONTENTS

経営理念	1
トップコミットメント	3
世界で活動するカシオグループ	5
製品・サービス紹介	7
特集	
進化する腕時計G-SHOCK	11
価値を生み出す開発力	13
スピーディで無駄のないものづくり	15
共感を広げるコミュニケーション	17
お客様満足向上への取り組み	18
経営効率を高めるIT	19
グループで取り組む環境経営	21
カシオの環境配慮型製品	23
カシオのCSRとマネジメント	25
人の力を伸ばす環境づくり	27
カシオグループの社会貢献	29
会社概要	30

TOP COMMITMENT

「創造 貢献」の経営理念に基づき 社会から必要とされる企業であり続けます。

取締役社長 **梶尾和雄**
Kashio Kazuo

「0→1」を生み出すカシオのDNA

カシオはこれまで、まったく世の中のない製品を開発し、そのことによって新しい市場と文化を創造して来ました。これが創業以来繰り返され、カシオのDNAとなって定着しています。

カシオの創業は、53年前の1957年、外国製の電動機械式計算機が日本市場を席卷していた時、世界で初めての小型純電気式計算機「カシオ14-A」を開発したことによります。この計算機は、圧倒的に静かで演算速度も早く、小型であったことから、瞬く間に計算機市場に浸透しました。



以来、カシオは演算素子の進化とともに新たな計算機を開発し続け、1972年には現在の電卓の元祖となった世界初のパーソナル電卓「カシオミニ」を開発しました。これにより、電卓はオフィスで仕事に使う道具から家庭で個人が使う道具として進化し、瞬く間に普及しました。このように、カシオはまったく新しい概念の計算する道具を社会に提供することで、人々の生活文化を変えてきました。

時計も同じです。宝飾品と同じ扱いであった時計をプラスチックのケースに入れ、時刻に関するさまざまな情報を提供するデジタル時計として世の中に送り出し、壊れやすい時計をあらゆる生活シーンで使える道具に進化させました。この最たるものが「G-SHOCK」であり、今や全世界で高い支持を得ており、単一ブランドとしては世界一の販売個数となっています。

楽器にしても同様であり、高度に練習を積んだ人にしか出せないアコースティック楽器の音を、誰でもが手軽に出せるようにしたいという思いから、鍵盤を弾くだけでさまざまな音色を出せる電子キーボードを開発しました。これが世界的に普及し、新たな市場ができました。

最近ではカメラです。カシオは1995年に世界で初めての液晶モニター付きデジタルカメラを発売しました。このカメラは画像をデジタルで保存できることから、パソコンに画像を取り込む手頃な機械として、瞬く間に普及しました。今ではフィルムを使わないカメラが当たり前になっています。

これらはすべて、「早くこういう製品を出して欲しい」というユーザーの希望に基づいて創られたものではありません。カシオが開発し、社会に提供したことによって初めて、これは便利・面白い・環境に良いと消費者の方に支持されるようになった製品です。

カシオはこうした、今までは世の中に存在しなかった製品を開発し、それを身近な道具として提供することで、人々の生活を便利に豊かにするとともに、新しい文化を生み出してきました。これがまさに、経営理念である「創造 貢献」の実現であると考えています。

経営体質を強化し、経営理念を実現し続ける

いわゆるリーマンショック後の世界同時不況の影響により足元の業績は悪化していますが、カシオは選択と集中によって事業構造を見直し、業績の回復につなげていきます。

具体的には、2010年4月1日付でTFT液晶事業を凸版印刷様との合弁事業に移管しました。これは、この事業が巨額の投資を続けられる企業だけが生き残れる事業構造になっており、単独で事業を継続するには大きなリスクを伴うためです。また、同年6月1日付で携帯電話事業をNEC様との合弁事業に移管しました。この事業も、1機種の新製品開発に膨大な開発コストがかかる上、国内市場は成熟しており、投資に見合う販売台数を確保することが難しくなっている他、海外市場には巨大な競合企業がひしめいています。従って、このように有力なパートナーと提携し事業統合を行うことで、1+1が2以上となるように投資効率を高め、相乗効果を発揮していくことを目指しています。

一方で、従来から高い利益率をもつ基盤事業はさらに業績を拡大していきます。時計・電子辞書・楽器・システム機器などは、カシオが長年手掛けてきた事業です。開発と営業の部門が一体となり、より効率的に競争力のある製品を開発すること、並びに、海外市場においてさらに木目の細かい販売活動を展開することで、売上の安定的な拡大と利益率の向上を目指していきます。

また、業績拡大の鍵を握るのがデジタルカメラ事業です。この事業も、カシオが世界で初めて液晶モニター付きデジタルカメラを発売したことから発展した市場です。しかしながら、現在ではコンパクト型デジタルカメラの国内市場は飽和状態にあり、1台あたりの製品単価も低下傾向にあります。カシオではハイスピード技術、動画合成技術など、新しい機能を搭載した製品を提供することで、さらに新しいカメラの楽しみ方を提案し、デジタルカメラ市場の掘り起しを行い、画像文化の裾野を広げていきます。

その他、新規事業も積極的に推進します。これまでカシオは、数字、

時間、音楽、写真などをすべてデジタル化することで、新たな市場と文化を開拓してきました。現在では、これまで蓄積した技術とノウハウを活かし、絵画のデジタル化に取り組んでいます。

カシオは、いつの時代でも皆様から「カシオらしい」と言っていただけるような製品開発を通じて、市場と文化を創造し、経営理念を実現していきます。まさに、これこそがカシオが社会に存在する意義であると思います。これからも、社会から評価され、愛される会社として存続することを目指します。

そして、事業活動を進めるに際しては、ステークホルダーの皆様方とのコミュニケーションを通じて、社会からの要請を真摯に受け止めるとともに、社会そのものの変化を敏感に見極め、これに適切に対処することで社会とともに進化していきたいと考えています。

特に環境面に関しては、地球温暖化が最大の懸念事項と認識しています。カシオでは、グローバルな事業活動における温室効果ガスの排出総量の中長期削減目標を設定し、従来までの取り組みをさらに加速して推進していきます。

世界で活動する カシオグループ

アジアを中心とした生産拠点に加え、地域ごとに統一された物流拠点などのグローバルネットワーク。
新しい価値のある製品を世界中の人々にお届けするために、カシオグループはグローバルに事業を展開しています。

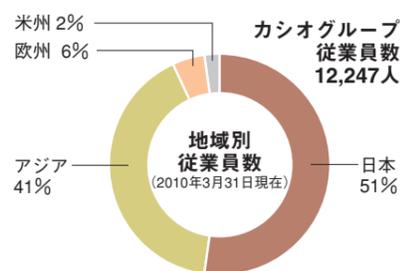


お取引先は世界に 125カ国約2万社

カシオグループは、製品を作るための部品・材料や設備の購入、製品の販売をはじめ、あらゆる企業活動を通じて、世界各国のビジネスパートナーと取引しています。それぞれの取引の拡大によってパートナーの皆様と共存共栄し、カシオグループは経済・社会の発展に貢献します。

従業員は世界で 12,247人

全世界のカシオグループには、開発・生産・販売拠点となる50の連結子会社があり、12,247人(2010年3月31日時点)の従業員が働いています。事業のグローバル化に合わせて、現地雇用を積極的に進めています。



世界に通用する日本ブランド ベスト30に選出

国際的なブランドコンサルティング会社のインターブランドジャパンが、世界に通用する高い価値をもった日本企業ブランド上位30社を選出した「Japan's Best Global Brands 2010」において、CASIOブランドは28位に選ばれています。



CASIOブランドの権利化国比率 97.4%

※国連加盟国192カ国に対し187カ国

カシオは、グローバルな企業活動を円滑に遂行するために、事業品目を中心に世界187カ国・1,738件の商標権でCASIOブランドを保護しています。2009年には、中国当局により馳名(著名)商標に認定されました。



- 中国の多機能拠点・カシオ電子シンセン
設計・調達・生産コントロールまでを担当 →P.15
- SHOCK THE WORLD
G-SHOCKのグローバルプロモーションツアー →P.17
- グローバルティーチャーズミーティング
関数電卓を授業に活用する学校教師とのネットワーク活動 →P.17
- カシオヨーロッパの省エネビル
冷暖房に地熱エネルギーを利用 →P.22
- カシオタイ・優良企業賞を受賞
雇用体制を4年連続でタイ政府が表彰 →P.27
- 日本学研究修士論文コンテスト
中国で唯一の日本学研究修士論文コンテストに協賛 →P.30

製品・サービス 紹介

カシオグループは、デジタル技術を駆使した需要創造型製品をグローバル市場に供給しています。製品の小型化、軽量化、省エネ化に取り組むとともに、使う人の立場に立った工夫を盛り込んでいます。これからも、今までにない機能を搭載した新製品や、環境にやさしい製品などを販売していきます。

※ここで紹介されている製品・サービスは、2010年6月時点の事業構成に基づいて掲載しています。携帯電話は、NECカシオモバイルコミュニケーションズ株式会社で事業を展開しています。

デジタルカメラ

画質、処理速度、電池寿命など、優れた基本性能に加え、高速画像処理技術を駆使した超高速連写、動画と動画の合成などで、従来のカメラの枠にとられない、新たな用途を提案しています。コンパクトデジタルカメラでは、国内シェア2位（2009年、GfK Japan調べ）です。

HIGH SPEED EXILIM
EX-FH100



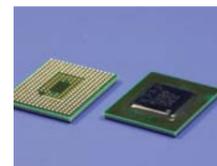
EXILIM ZOOM
EX-Z2000



EXILIM G
EX-G1



Advanced Technology



EXILIMエンジン

最新の「EXILIMエンジン5.0」では、通常のCPUと高速画像処理専用のCPUをパッケージした「EXILIMエンジン4.0」がさらに進化しています。画像処理速度を従来比1.3倍に高めるとともに、美しい画質を実現しています。

電子辞書

高校生、外国語学習者、ビジネスパーソンなど多彩なユーザーの用途に応える充実したラインアップを取り揃え、国内で50%以上のトップシェア（2009年、GfK Japan調べ）を占めています。直感的に操作できるタッチパネルや見やすいカラー画面など使いやすさを追求するとともに、コンテンツの充実により幅広い層の知的探究心に応えています。

EX-word
XD-A10000



電卓

世界累計販売10億台を超える実績があり、国内で50%以上のトップシェア（2009年、GfK Japan調べ）を占めています。経理・財務などのエキスパートのニーズに応える本格実務電卓から数学教育にも貢献する関数電卓まで、多彩なラインアップを取り揃えており、便利な機能と優れた品質から世界中で支持されています。

DS-20DT



fx-993ES



電子文具

美しいラベルが手軽に打ち出せる「NAME LAND」、パソコンを使わずに年賀状などが作成できる「プリン写ル」など、文房具を扱う感覚で簡単に印刷できる電子文具の開発を通じて、家庭からオフィスまでの多彩なプリントニーズに応えています。

NAME LAND
KL-T100



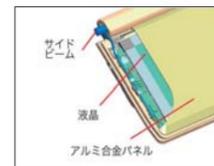
プリン写ル
PCP-1300



電子楽器

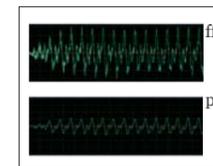
自然で美しいサウンドを手軽に演奏できる電子楽器を続々と開発していくことで、音楽人口の拡大を目指しています。グランドピアノの美しい響きと豊かな表現力を追求した電子ピアノ、鍵盤が光って弾くところを教えてくれる初心者向け電子キーボードなど、多彩な製品群を通じて“弾く楽しさ”を提供し続けています。

Privia
PX-830



TAFcot (タフコット)

電子辞書「EX-word」には、堅牢性を追求した強化設計「TAFcot」を採用しています。ボディの内部にサイドビームや緩衝材、SUSフレームなどを使用して剛性を強化。落下、加圧、振動などの衝撃を緩和し、液晶の破壊や電子部品の破損を防ぎます。



リニアモーフィング AIF音源

コンサートグランドピアノから強弱音をサンプリングし、その音を連続的に変化させることで、繊細なピアノシモから迫力あるフォルティッシモまで実現しました。滑らかな音色変化で、表情豊かな演奏表現が可能です。

時計

世界6局の標準電波を受信するソーラー電波ウォッチなど、先進のエレクトロニクス技術を駆使したカシオならではの商品開発やマーケティングを展開し、G-SHOCKやOCEANUS、PROTREKなどのブランドで魅力的な時計を提供し続けています。2009年には、G-SHOCKの累計出荷5,000万個を達成しました。電波ウォッチでは世界No.1シェアを占めています。



OCEANUS
OCW-S1400



G-SHOCK
GWF-1000



IDC-510J

Advanced Technology



タフムーブメント

世界の6局の標準電波に対応した電波受信機能「マルチバンド6」とソーラー充電システム「タフソーラー」、針ずれが起きた場合に自動で針位置を修正する「針位置自動補正機能」、衝撃に強い「ハイブリッドマウント構造」を備えた高性能・薄型の電波ソーラームーブメントです。



レーザー&LEDハイブリッド光源

青色レーザー光を蛍光体によって緑色に高効率変換し、従来の半導体光源では困難とされてきた緑色光の高出力化を実現しました。この緑色光と青色レーザー光、赤色LEDの発する光を組み合わせ、水銀ランプを使わずに2,000ルーメン以上の高輝度を実現しました。

携帯電話

防水・耐衝撃などのタフネス性能や、デジタルカメラ“EXILIM”由来の高性能なカメラ性能を活かしたカシオらしい携帯電話を、日本・アメリカで展開しています。



au
EXILIMケータイ
CA005

データプロジェクター

光学技術や高密度実装技術など先進のテクノロジーを駆使することで、スリムで高輝度なデータプロジェクターを開発し、モバイル用途を積極的に開拓。さらに独自の「レーザー&LEDハイブリッド光源」を開発することで水銀フリーの高輝度プロジェクターを実現するなど、常に次世代のプロジェクターを追究し続けています。



XJ-A145

ページプリンタ

プリンタ本体からトナーや印刷ソフトウェアにいたるまで一貫した開発体制のもと、環境への配慮と経済性の両立を追求しています。プリンタ業界初のカーボンオフセット付きトナーの実現や、用紙などの節減を支援する印刷ツールを無償提供するなど、先進的な取り組みが高い評価を得ています。



SPEEDIA
N3600

電子レジスター

機能や用途に合わせて選べる豊富なラインアップにより、国内シェアNo.1(2009年 RJCリサーチ調べ)を占めています。2007年からはインターネットに接続して「売上集計管理サービス」などを利用できる「ネットレジ」を展開しており、飲食店や小売店を中心に好評を博しています。



TE-5500

ハンディターミナル

使いやすさと堅牢性を追求した充実の製品群で、さまざまな現場のIT化を支援しています。在庫管理などのバックヤード業務から、店舗内接客などのフロントエンド業務まで幅広い現場で活用されており、業務円滑化を促進するコミュニケーションツールとしても、注目を集めています。



DT-5300

システムソリューション

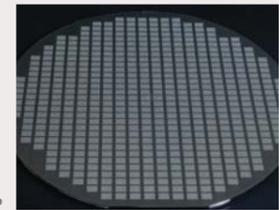
カシオ情報機器では、中小規模企業の販売管理・会計・給与業務などをサポートする「楽一」をはじめ、さまざまな業種・業界・業務に特化したシステムを展開。カシオヒューマンシステムズでは、「ADPS人事統合システム」を中心に、「人材」の有効活用を支援するシステムも展開しています。



楽一

電子デバイス

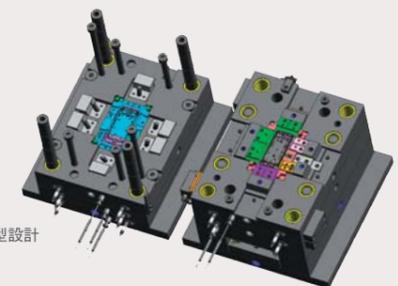
カシオマイクロニクスは、携帯電話など多くの機器に利用されている最先端の半導体パッケージ(WLP)の製造を受託しています。甲府カシオでは、中小型STN/TN液晶などのデバイスを製造しています。



WLP

金型・プラスチック成形

山形 カシオでは、カシオ製品の製造で培った成形技術を活かし、携帯電話や車載部品などのプラスチック部品の成形、および金型の製造を受託しています。



金型設計

進化する腕時計 G-SHOCK

全世界に展開中のG-SHOCK。国境や文化を超えて、世界中の人に受け入れられています。発売から25年以上を経て、累計5,000万個以上が売れ、なおもロングセラーを続ける背景には、基本コンセプトと一体となった技術とデザインで、あくなき「進化」を続ける開発姿勢があります。

全方向ガード構造

ケースやベゼルの形状をどの方向へも突き出たようにすることで、あらゆる方向からの落下衝撃を受け止め、ボタン、ガラス、裏面へ直接衝撃が伝わらないように緩和。

タフソーラー

太陽光はもちろん、蛍光灯などの光を動力に変換。ソーラーパネルで光を受けて発電し、内蔵の二次電池に充電することで、時刻表示をはじめ、アラームやライトなど、強い負荷のかかる機能も安定駆動。



ソーラーパネル

中空構造

心臓部のモジュールは、ケースの中で、緩衝材の中に浮かんだような形になっており、点で支えられているので、外部からの衝撃が直接伝わらない。最新のアナログモデルに搭載している「タフムーブメント」は、モジュール自体が耐衝撃性を装備。

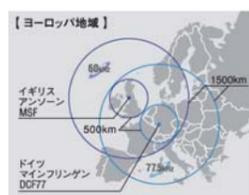
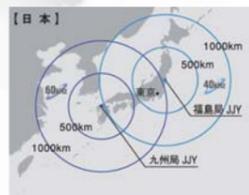
緩衝パーツ

ムーブメント裏側からの衝撃を緩和。



電波受信機能

時刻情報の載った標準電波を受信して時刻を補正する電波時計機能。最新モデルでは世界6局（日本2局、アメリカ、ドイツ、イギリス、中国）に対応。



■常識への挑戦と進化

壊れない時計をつくる

カシオが時計事業に参入した1970年代当時、腕時計は「落としてはいけない、デリケートな精密機械」でした。その常識を覆したのが、1983年に発売した耐衝撃腕時計「G-SHOCK」です。「どこでも安心して使えるよう、落としても壊れない丈夫な時計をつくらう」と考え、ビルの窓からの落下実験を繰り返しては、壊れ方を分析して構造設計を考え直し、試行錯誤を続けました。その結果、衝撃を和らげる柔らかい素材と硬い材質のフレームを組み合わせ、心臓部のモジュールを何重もの耐衝撃構造で守る設計により、10メートルの高さから落としても壊れない時計を完成させました。

G-SHOCKブーム到来

発売後、ハードな環境でも使える実用的な時計として評価を獲得。耐衝撃性能のイメージを伝えるために、アイスホッケーのパックの代わりにG-SHOCKを打つというCMをアメリカで流したところ、これを本当に実験して成功した番組が放映されて話題になり、そのユニークなスタイルと防水・耐衝撃性能がファンを増

やしていきました。90年代になるとアメリカ西海岸から若者のファッションとともに伝わり、日本でもG-SHOCKブームが到来しました。

あくなきタフネスの追求

G-SHOCKの原点は、防水・耐衝撃性によるタフネスにあります。このコンセプトを常に追求し、新しいタフネス技術を開発してきました。泥だらけになっても時計内部には泥が入らない構造や、海上での使用でも錆びにくいチタン素材の採用など、あらゆる「タフな環境」を想定し、これを克服する新たな耐久性能を採り入れていきました。このタフネスへのこだわりが、G-SHOCKが多くのファンの支持を集めている、最も大きな理由です。最新モデル「SKY COCKPIT」では、時速370kmで旋回する飛行機の中でも、安定して針を動かせる耐遠心重力性能を装備しています。

電波ソーラー技術で新たなステージへ

近年、G-SHOCKは新しいチャレンジとして、耐衝撃性を確保したまま、時計本来の基本性能を高める電波ソーラー技術を搭載しました。

正確な時間を表示できる電波時計も、光で発電するソーラー駆動も、誰もが必要とするものであり、基本コンセプトである耐衝撃性と同様、信頼性を支える機能です。この新機能をまとうことで、G-SHOCKは、新たなステージへと進化を遂げました。

テクノロジーによる進化とデザインへの昇華

腕時計のブランドは、機能とデザインの両面が良くなければ満足されません。G-SHOCKでは、衝撃を和らげるためのプロテクターや、センサーなどが、必然的に外観にも表れた形にして、機能とデザインを高度に一体化し、開発コンセプトが使う人に感じてもらうようにしています。G-SHOCKの機能とデザインは切り離すことができない関係であり、ブランド力を高める要素として、コア技術の進化を見せるデザインを重視しています。

これからもG-SHOCKは、進化を止めることはありません。常識を覆し、進化し続けることが、G-SHOCKのアイデンティティーです。



取締役
時計事業部長
増田 裕一

エレクトロニクスで世界オンリー・ワンの時計をつくる

カシオは、エレクトロニクス技術を背景にデジタルウォッチを開発し、以来30年間、スイスウォッチに代表されるメカニカルウォッチとは異なるアプローチで新しい時計を追求し、G-SHOCK、Baby-G、PROTREK、OCEANUS、EDIFICEといったブランドを確立しています。

メカニカルウォッチは、同じ製品が世代を超えて長く使われる、伝統と匠の世界ですが、私たちが目指すのは、これとは全く異なる価値観です。エレクトロニクス技術を活かせば、LSIや

センサーを組み合わせ、メカニカルウォッチでは不可能な表現ができます。これまで、カシオは液晶による多機能デジタルウォッチでこれを表現してきましたが、これからはアナログウォッチでも、エレクトロニクス技術を活かして針や文字板の動きを組み合わせた多彩な表現、多彩な機能を提供します。例えば、クロノグラフなどの複雑な多針を独立したモーターで別々に回転させたり、文字板そのものを回転させるといったことも自在に可能です。こうしたテクノ

ロジを柔軟に採り入れながら、常に進化を続けることが、時計市場でのカシオのポジションだと考えています。

時計自体の概念を変えて、市場をもっと活性化したい。いつも興味をもって注目されるような文化を、時計業界で創造していきたいと思っています。オンリー・ワンの時計をつくり、エレクトロニクスウォッチで、世界を代表する企業になることが目標です。

価値を生み出す 開発力

カシオは、メーカーの果たすべき最大の役割は、従来になかった製品を世の中に提供し、社会を進化させることだと考えています。
新しい価値を持った製品を開発し、新しい文化を創造する。「ゼロから1を生む」ことが、カシオの開発です。



斬新な商品企画と高水準な技術力

今までにない商品を生み出すため、カシオは斬新な発想による企画力と高度な技術力の両輪が大事だと考えています。従来の常識にとらわれない柔軟な発想で、それまで誰も気づかなかった、しかし誰もが必要としているような潜在的な需要を見つけ出し、商品企画を行います。ユニークな商品企画を現実のものとし、他に真似のできない競争力のある製品として完成するためには、さまざまな障壁を打ち破っていく、高水準な技術力が必要になります。カシオは先端技術の開発に日夜取り組み、新分野への挑戦を続けています。

■新分野への挑戦：デジタルアートフレーム



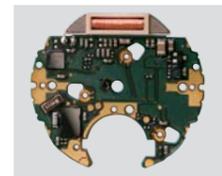
今年 秋以降に発売予定の「デジタルアートフレーム」は、画像認識・画像処理技術を活用し、「絵画調変換技術」によって、デジタルカメラで撮影した画像を、油絵や水彩、パステルや色鉛筆などの絵画調に変換できるというものです。絵画調に変えた「作品」に、動くパーツを合成することも可能です。創った作品は、自宅に飾るだけでなく、ネットワーク経由でブログに公開できるなど、従来のデジタルフォトフレームの「見る楽しさ」「飾る楽しさ」に、「創る楽しさ」「見せる楽しさ」という価値を加えることで、感性価値を提供するまったく新しい「デジタルイメージングプロダクト」です。



カシオは、5つのコア・テクノロジーを絶えず進化させ、斬新な発想を製品として実現させています。

省電力 小さなパワーで賢く動く

電波を受信するアナログ回路とデータを処理するデジタル回路を一体化できる、業界初のオールバンドCMOS受信LSIにより、一般的な通信機器の1,000分の1程度の微小電力で安定して動作する電波時計用回路を実用化。世界の電波に対応した「マルチバンド6」モデルから採用しています。



使いやすさ 誰にでも使いやすく

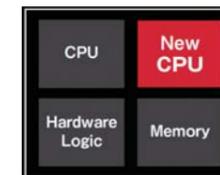
電卓の上位機種では確実に間違いなく操作できるよう、わずかに1~9のキーの表面をへこませ、0などの手前のキーは指を引きながらはじけるよう、ゆるやかな凸型にしてあります。また、押した感覚を感じやすいように、キーの底に独自の極薄のクッションを挿入し、斜めにキーを押しても反応するように調節してあります。



※1 WLP: Wafer Level Package ウエハー状態のまま銅の再配線形成、電極端子形成と樹脂封止を行うことを可能にしたLSIパッケージ。
※2 EWLP: Embedded Wafer Level Package WLPをシステム基板に内蔵することで、電子機器の高性能化と小型・薄型・軽量化を実現する実装技術。

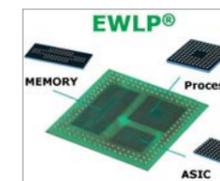
デジタル技術 デジタルで不可能を可能にする

デジタルカメラの「EXILIMエンジン5.0」では、2つのCPUが並列で稼働するマルチCPU設計により、複雑な画像処理を瞬時にを行います。また最新の画像処理アルゴリズムにより、撮ろうとしている状況が逆光・夜景であるかどうかなどを判断して最適な処理を行い、ノイズを抑えた美しい画像を生み出します。



小型化 小さく、薄く、軽く

小型・高性能・高信頼性・低コスト・省材料な半導体パッケージとして、携帯電話などで急速に拡大しているWLP※1。さらに、チップ自体をプリント基板に内蔵した、最先端の高密度実装技術「EWLP※2」も開発し、用途拡大を進めています。地球環境保全に貢献する「はんだレス実装」の実現にも取り組んでいます。



耐久性 いつでも使える安心感

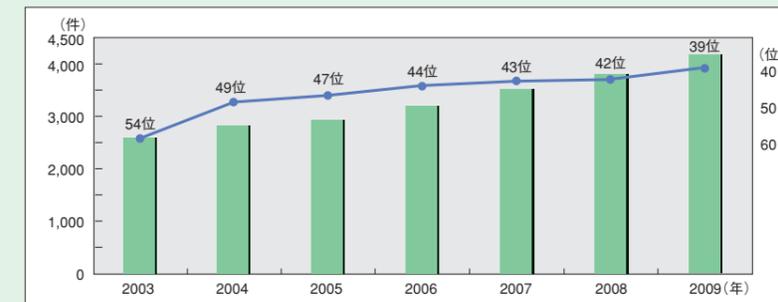
「G-SHOCK」のガラス面、ボタン、裏蓋は、落下時も直接接地しないようにデザイン。心臓部のモジュールは、中空構造の中に浮いた形にレイアウトされ、各電子部品は緩衝材で守られています。衝撃にも折れにくいようアモルファス薄膜を積層化した電波受信アンテナ、耐衝撃性を備えたアナログムーブメント「タフムーブメント」など、さらに進化を続けています。



■技術資産を着実に蓄積

開発した技術の結晶ともいえる特許。技術開発に連動する形で保有特許の質・量を毎年増強し、業界での競争力を着実に高めています。

国内での登録特許の存続件数と順位（当該年末末において失効した特許を除く）



大学、研究機関および外国籍企業を除く日本企業9,372社を対象に当社集計

スピーディで無駄のないものづくり

需要の変化を機敏にとらえ、設計から生産、そしてお客様に届くまでのサプライチェーンを迅速・効率的に連動させています。



- 山形カシオ
- 甲府カシオ
- カシオ電子工業
- カシオマイクロニクス

- 香港カシオ
- カシオ電子シンセン
- カシオ電子科技 (中山)

設計における効率化は、それ以降の製品をつくる工程すべてに効いてきます。そのため、使う材料や部品点数を少なく抑えられるよう、無駄を徹底的に排除しています。設計はすべて3D-CADで行い、設計データはオンラインで社内ネットワークを流れます。データは必要な部品のチェックや、製造用の金型の作成、マニュアル用の図版作成まで、あらゆる下流工程で活用されます。

市場動向の変化に合わせて、生産計画も日々変わります。無駄を出さないため、部品調達にも細心のコントロールが求められます。ITを駆使して本社・工場と結び、常に最新の計画に基づいて調達量を調整します。また取引先と公正で公平な関係を築くため、社会・環境問題を網羅した「資材調達方針」を定め、説明会やアンケート調査を通じて、協働してCSR調達に取り組んでいます。

主力工場は、日本、中国、タイにあります。技術力、市場への距離、部材調達のしやすさ、労働コストなど、それぞれの特性により使い分け、国際分業で「最適地生産」を行っています。どの製品に対しても生産できる拠点を2カ所確保することで、安定供給を実行しています。製品や事業における競争力を高めるため、独自の生産技術を磨き、部品の内製化の拡大も図っています。

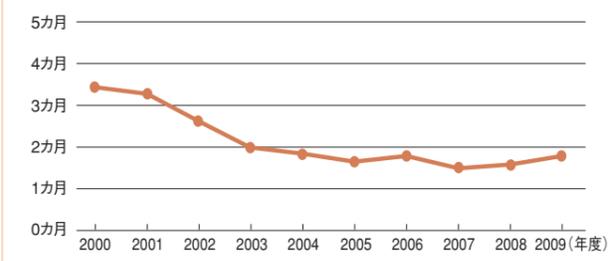
製品を効率的に、少しでも速く届ける工夫を重ねています。販売計画や時々の貨物事情に対応して、コスト・輸送時間の少ない最適な輸送手段を見つけ出します。物流拠点の統廃合や、各地の最短ルート地点への再配置も進めています。運ばれるコンテナの規格から、無駄なく積める最適な箱の大きさを計算。梱装箱を目標サイズに収め、物流CO₂とコストを下げています。

設計から調達・生産コントロールまでを行う多機能拠点



広東省のカシオ電子シンセンでは、従来担当していた生産工程に加えて、設計や部品調達、金型の製作、品質保証にまで担当機能を拡げました。現在では時計の5割以上の設計を手掛けています。最上流の設計から製品の出荷までを一括して行うことで、量産開始までのリードタイムを短縮しました。カシオ電子シンセンは、中国の他の拠点への生産割り振りなどのコントロールも行っています。

在庫回転月数の推移



在庫回転月数は、安定して1か月台を維持。無駄な在庫を持たずに、市場が求める分だけの量を、すばやく柔軟に生産しています。

年間生産個数 **1億個以上**

カシオが送り出す製品は、周辺機器も含め年間1億個以上。多岐にわたる品目で、迅速にラインアップを切り替えながら、滞りなく生産を行っています。

最先端「タフムーブメント」自動組み立てライン



山形カシオは、最先端の時計用ムーブメント「タフムーブメント」を生産するため、独自の「アナログブロック自動組み立てライン」を導入しました。リニアモーターによる5軸ロボットで、多種部品への対応や組み立ての高速化を実現。特に精度を要する針駆動用の微小歯車の組み込みには、画像センサーを搭載した組み立て装置を導入し、歯車の回転角度と位置合わせを自動で行っています。

デジタル仕分システムで欧州市場へ即日出荷



欧州市場への販売を統轄するドイツのカシオヨーロッパは、2009年に新拠点へ移行。欧州各国からの注文を受け、同市場向けの9割(英国を除く)の商品を出荷しています。17,000平方メートルの新倉庫は、カシオのハンディターミナルの活用や、デジタル仕分システムなどにより、ペーパーレス化と効率化を徹底。受注から出荷までのリードタイムを、6~7割のオーダーで24時間以内にするを目指しています。

共感を広げる コミュニケーション

カシオは、今までになかった喜びや楽しみを社会に提案する商品を開発しています。その新しい価値をお客様に理解していただくために、さまざまなコミュニケーションを工夫しています。



■ユーザー発信型のWebプロモーション

耐衝撃性能を備えたタフネスカメラ、EXILIM EX-G1。このカメラのコンセプトと魅力を、より多くの方に理解していただくため、実際の愛用者をWebサイトに掲載。製品の良さを、ユーザー自身が生の声で発信する新しいスタイルによって、人から人へ伝わっていく、共感型プロモーションに取り組んでいます。

■先生との交流で関数電卓の活用を深める

「関数電卓を活用して、数学を深く理解しよう」そんな世界各国の数学教師の声から生まれた「グローバル・ティーチャーズ・ミーティング」。各国の教師が集まって、関数電卓を使った活用事例や意見交換を行っています。カシオはこの活動を支援しながら、先生の意見を聞き、交流活動を通じて、関数電卓のより深い浸透を目指しています。



■G-SHOCKの世界を伝えるツアーイベント

G-SHOCKの本質である「タフネス」を、スポーツ・音楽・ファッション・アートなどを通じて世界中の若者に伝えるグローバルプロモーションです。G-SHOCKを支持しているトップアスリートや世界的ミュージシャンなどをゲストに招いたトークや、ダンスパフォーマンスなどのイベントを開催。2009年は12カ国19都市で実施され、合計1万5千人を超えるG-SHOCKファンが集まり、G-SHOCKの世界を楽しみました。



お客様満足向上への 取り組み

お客様満足の向上を追求するために、お客様からのご相談への対応、アフターサービス、安全対策などに取り組み、改善活動にも結びつけています。

■お客様相談

お客様相談センターでは、お客様からのご相談に対して迅速、的確、丁寧に真心を込めてお応えしています。

お客様が望まれる有用な情報を適切に提供できるよう、日頃から、テクニカルスキルやコミュニケーションスキル向上に取り組んでいます。さらにメール対応力を強化すべく、新たにライティングスキルの教育プログラムを拡充しています。



お客様相談センター

■アフターサービス

修理対応を担うサービス部門では、「信頼できる技術」「迅速な対応」「適正な料金」の3つの柱でアフターサービスにおけるお客様満足度向上に取り組んでいます。

技術研修や社内競技会を通じて修理技術・商品知識・窓口対応の各スキル向上を図るとともに、公的資格の取得にも力を入れ、2009年度は、写真とカメラの実用知識検定「フォトマスター検定」において優秀団体賞を受賞しました。

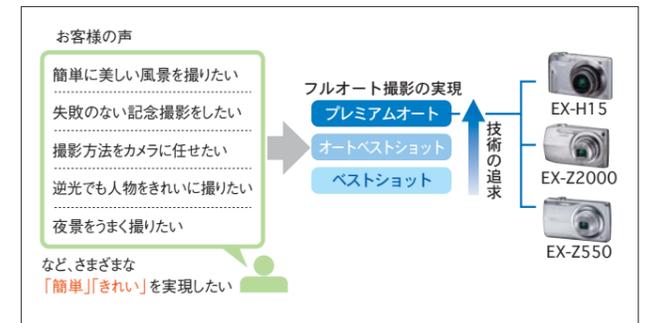
お客様の利便性向上のため、クイックサービス（一部のサービスステーションで実施）や修理品の「引き取りサービス」などを用意。また定額制など、わかりやすい料金体系構築に努めています。



専門スタッフによる修理

■お客様の声を商品開発に反映

壊れないこと、安全性、使い心地やデザインなど、製品についてのお客様の満足度調査を定期的に行うとともに、お客様相談センターなどに寄せられるお客様の声を商品開発に活かして、満足度の向上に努めています。例えばデジタルカメラでは、簡単にきれいな画像が撮りたいというお客様の声を参考にしながら、機能を進化させています。



■安全対策の強化

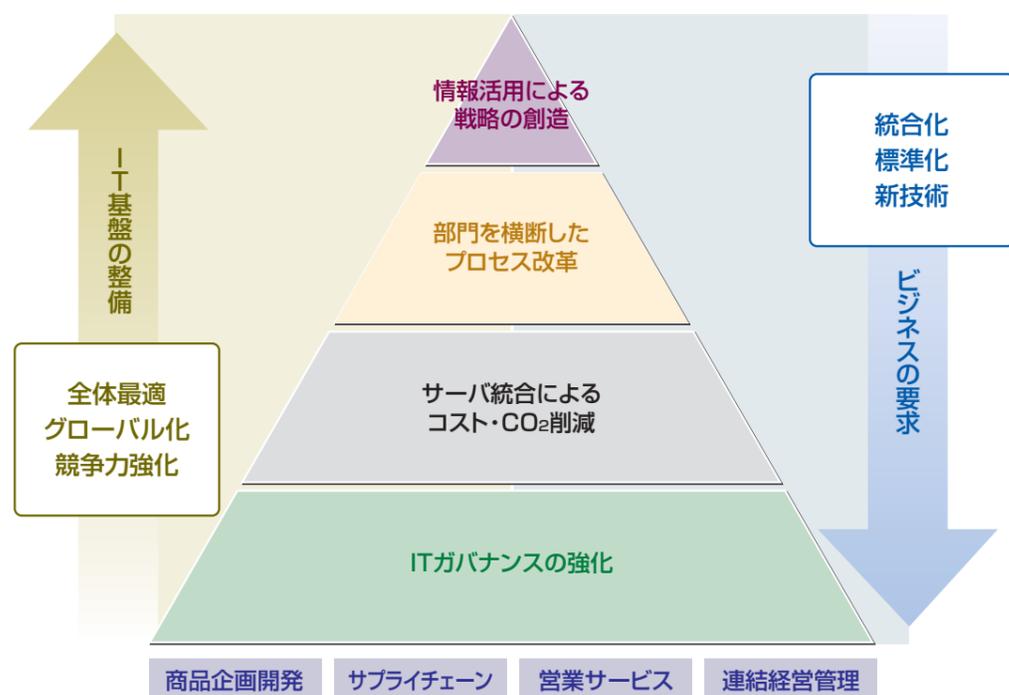
製品を安心してお使いいただくために、製品の安全性には特に配慮しています。安全性の確保に大きな役割を持つ設計段階では、設計する人や組織によって製品の安全性にバラツキが出ないように安全設計基準が設けられています。また、温度、湿度、圧力、落下、振動など、さまざまな条件下で耐久試験を行い、安全性を実際に確認したり、材料や構造についての設計基準を見直すなど、安全設計の仕組みの強化に努めています。



信頼性センターの試験装置群

経営効率を高めるIT

企業体質強化に取り組むことは企業にとって最重要課題のひとつと考え、
“カシオのあるべきIT像”を全世界のグループ会社とも共有しながら全体最適なシステムを構築しています。



■情報活用による戦略の創造

カシオは、企業活動において発生する情報の戦略的活用を徹底的に進めることで、経営の効率化を進めてきました。全世界のカシオグループで発生するモノやお金の流れを迅速・正確に管理する基幹業務システムを構築し、グローバル経営を支えています。

これをさらに発展させ、経営戦略を立てるのに必要なさまざまな情報が、コックピットのようにリアルタイムで見える、経営情報システムの構築に取り組んでいます。購買・販売・会計などの情報に、事業計画を統合し、さらに市場動向などの社外情報をスピーディに取り込んで多面的に分析。現在の経営状況を把握するだけでなく、未来の動向をも予測し、先手の経営施策が打てる仕組みです。

■部門を横断したプロセス改革

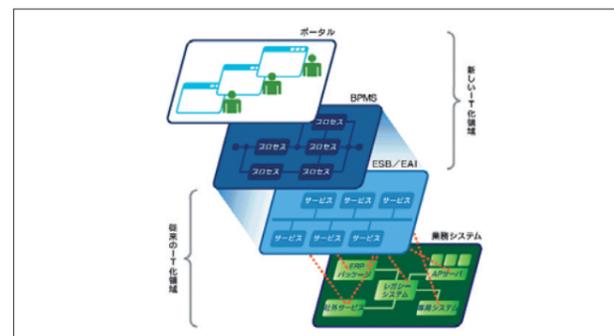
ITは、情報を集めて活用するだけでなく、情報の流れを整理し、業務の連携を見直すことで、ビジネスモデルやビジネスプロセスそのものを進化させていく働きがあります。

“サービス”と呼ばれるシステム機能部品を組み合わせながら新たな業務プロセスを構築するSOA (Service Oriented Architecture) やインターネット関連の新技术を積極的に導入し、部門や組織を超えた横断的なシステムを作ることで、効果的・効率的な営業活動支援、サプライチェーン連携を実現させています。

■ITガバナンスの強化

グループ全体のITインフラ統合、業務とシステムの標準化を推進していくためには、IT構築・運用に関するガバナンスの強化が必要不可欠です。カシオ計算機の業務開発部 (IT部門) とカシオ情報サービスは2008年2月、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際規格である「ISO/IE27001」の認証を取得しました。この取り組みを通じて、情報セキュリティ管理レベルの継続的な向上・維持、IT内部統制に必要なPDCAサイクルの確立を図ってきました。

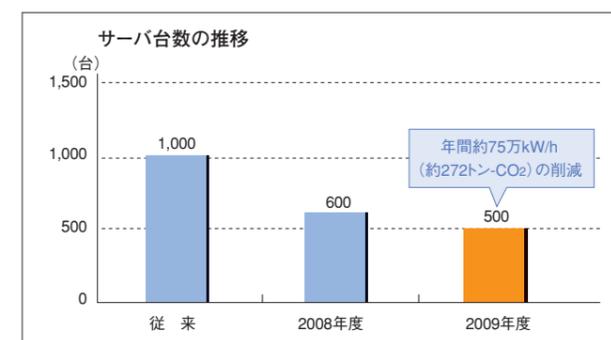
グループIT運営全体のガバナンス強化を図るとともに、経営に貢献するITを担っていくこれからのIT人材の育成を中期的な重点課題と位置付け組織力の強化を図っています。



■サーバ統合によるコスト・CO2削減

CO2削減につながる「グリーンIT」を推進しています。1台のサーバ上で複数台分を稼働させる「仮想化技術」を活用することで、サーバ台数を大きく減らし、電力消費を削減するとともに、サーバ導入コストの抑制と運用の集中化・効率化を果たしています。

2010年3月までに500台の統合が完了し、年間約75万kWの電力量を削減。これは約272トンのCO2削減にあたります。2010年度から2011年度にかけては、さらに200台規模を統合し、累計で年間105kWの電力量を削減する計画です。



最新のITで使いやすい企業サイトを構築

社会とのインターフェイスであるカシオホームページを2010年3月に全面リニューアル。アクセスを分析して、設計から全体を見直し、より使いやすい構造にしました。



サイトを支える最新システム

製品情報が収められたデータベースを構築し、動的にコンテンツを表示する最新技術を用いてWebサイトと連動させることによって、スペックなどの製品の情報を常に最新に保ち、変更があった際には、その製品の情報が複数のページが、同時に更新されます。また、各ページでの滞在時間などを計算する解析ツールを組み込み、常に使い勝手を見直しています。

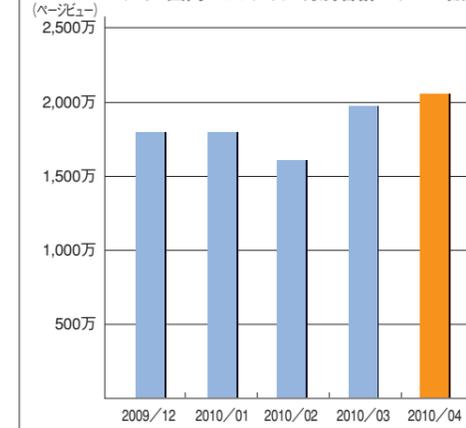
使いやすさを徹底重視

デザインは白をベースにシンプルな表現を心掛け、わかりやすさを重視しました。また、導線設計を改善し、製品情報や問い合わせ先などを検索しやすく、お客様が知りたいと思う情報に迷わずにたどり着けるようにしました。リニューアル後、アクセス数は順調に増加しています。



カシオコミュニケーションプレイング
ウェブ統轄グループ
中津川 裕也

カシオ 国内Webサイト 月別合計アクセス数



グループで取り組む環境経営

カシオは持続可能な社会の実現に向けて、2050年を見据えた長期的な視点に基づく「カシオ環境ビジョン」を新たに設定し、環境に配慮した環境経営に取り組んでいます。

CO₂削減が環境経営の最重要課題

取締役副社長 榎尾 幸雄

カシオは創業当初から、より小さく、薄く、軽く、ローパワーな製品をつくることに、力を注いできました。もとより資源が少ない日本で、商品価値を高めるためにいかに材料やエネルギーを節約しながら、ものづくりをするかを考えていたのです。環境問題がクローズアップされる以前から、カシオのものづくりには、環境負荷を減らす姿勢が根付いていると言えます。

カシオグループは、環境負荷の小さい製品を作ることはもちろん、生産や事務も含めた、企業活動全体において環境負荷の低減に取り組む「環境経営」を実践しており、特に重点とすべきテーマは「カシオ環境宣言」として明文化しています。

「カシオ環境宣言」に掲げられている中でも、最も重視しているのが、国際社会が総力を挙げて取り組んでいるCO₂の削減です。私たちメーカーが社会に果たすべき役割として、具体的なCO₂削減の数値目標を定めた2020年、2050年に向けた「中長期行動目標」を立て、すぐに行動することを決めました。平坦な道のりではありませんが、持てる技術を注ぎ込み、グループを挙げて、達成を目指します。

また、私たちの社会は、さまざまな生物が共存する「生物多様性」の上に成り立っています。企業活動においても、生態系を破壊することなく、豊かな生命を育てていくための努力をしなければなりません。今後、事業活動が生態系へ及ぼす影響評価を行い、必要に応じ対策を講じて、次の世代へと、かけがえのない地球を受け継いでいきたいと思えます。



カシオ環境宣言



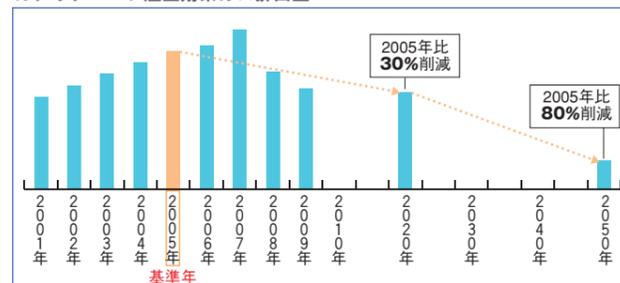
1. CO₂の削減と吸収
2. クリーンエネルギーの活用
3. 資源の有効利用
4. 事業活動の再生可能エネルギー導入
5. 生態系の保全

中長期目標

カシオグループは、カーボンニュートラル※の実現を目指しつつ、2050年に世界の平均気温を2℃以内の上昇に抑えるためには、当社においても2005年比80%の削減が必要であると考え、長期目標としました。次に、その長期目標達成のためには、2020年に少なくとも2005年比30%削減が必要であると判断し、中期目標としています。

※カーボンニュートラル：弊社の定義により、CO₂排出量と同じ量のCO₂削減、吸収効果を別の手段によりオフセット（相殺）することを意味します。

カシオグループ温室効果ガス排出量



中長期目標策定の考え方

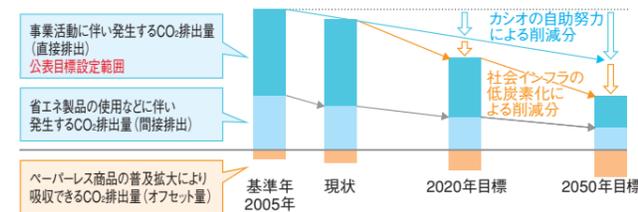
中長期目標を策定するにあたり、温室効果ガス削減を図るとともに、将来的にカシオグループからの温室効果ガスの排出量をゼロにする、「カーボンニュートラル」を目指すことを重要課題と位置付け、下記の環境経営方針を設定しました。

「小型・軽量・薄型・省電力のモノづくり」により、新しい市場の創造と文化の形成に貢献するとともに、カーボンニュートラルな企業を目指す

排出削減目標の範囲

中長期目標の策定に際して、国内、海外の生産拠点、オフィス拠点における事業活動に伴い発生する温室効果ガス発生範囲を公表目標設定範囲として定めました。さらに、物流、製品使用、従業員移動、委託生産に伴い発生するCO₂排出量も含めた、カシオグループとしての温室効果ガスの排出総量に対して、データプロジェクター、電子辞書などのペーパーレス商品に代表される環境適合型製品によるCO₂削減効果などをオフセットとみなすことにより、カーボンニュートラルの実現を目指そうと考えています。

CO₂排出量削減の中には、カシオグループが自助努力で削減する部分に加えて、電力などのエネルギー供給や社会インフラ全般の低炭素化による削減分も含まれています。



2020年に向けた施策

2020年の中期目標達成に向けては、下記の取り組みを実施検討し、なるべく早い段階で2050年の目標達成の実現可能性が見えるように努力していきます。

1. 事業活動に伴う各工程におけるCO₂排出量削減
 - ・材料調達／製品製造／輸送／物流／使用／リサイクル・廃棄
 - ・物流におけるCO₂排出データ取得範囲の拡大、輸送効率向上、モーダルシフト
 - ・生産設備の省エネ化、生産プロセスの改善
2. 事業所における非化石燃料使用の比率拡大
 - ・LED照明の導入
 - ・太陽光発電パネルの導入
3. 製品による環境貢献
 - ・製品の使用電力削減
 - ・製品梱包サイズの縮小、最適化
 - ・太陽電池で動作する製品比率の拡大
4. カーボンオフセットの活用
 - ・ペーパーレス商品拡充によるCO₂吸収効果（立木伐採の回避など）
 - ・製品に対するカーボンオフセット購入
 - ・植林／緑化の推進
 - ・排出量取引／CDM（クリーン開発メカニズム）／JI（共同実施）

環境に配慮した取り組み

省エネに配慮した八王子技術センター



八王子技術センター

2003年11月に竣工した八王子技術センターは、設計当初から環境配慮設備を取り入れた研究開発棟です。

「高効率立型蓄熱槽」「自然換気システム」「照明制御」「予測制御」といった省エネ手法を導入し、設備の効率的な運用を行っています。

八王子技術センターでは、2006年に東京都から最高位のAAA評価を受け、都知事より表彰されました。

地熱を利用したヨーロッパオフィス



カシオヨーロッパの新オフィス

カシオヨーロッパは、2009年に、これまで分散していた拠点を新設の省エネビルに統合しました。空調システムは、地下約130mにある地熱採取装置から汲み上げた水を施設内に循環させ、夏は冷房、冬は地熱を使った暖房として機能させています。その他、天候に合わせて自動開閉するブラインドなどを導入しています。

カシオの環境配慮型製品

商品が環境に与える負荷を最小にするために、企画、デザイン、設計など、さまざまな点から環境に配慮した商品開発を行っています。

グリーン購入法適合電卓



環境仕様
 ●ソーラー電池を採用
 ●再生プラスチックを40%以上使用
 (プラスチック重量比)

電子辞書



環境仕様
 ●パッケージの小型化により輸送効率を36%向上
 (当社DX-SP6000と比較)



このマークは、グリーンスターコンセプトに基づき開発された商品であることを表します。

デジタルカメラ



環境仕様
 ●CIPA規格による1枚当たりの消費電力が49%削減
 ●パッケージの小型化により輸送効率を42%向上
 (当社EX-Z1200と比較)

データプロジェクター



環境仕様
 ●光源に水銀を使用しておりません
 ●パッケージの小型化により輸送効率を30%向上
 (当社XJ-S32と比較)

上記はグリーンスター商品の一例です。

■小型・軽量・薄型・省電力の歴史

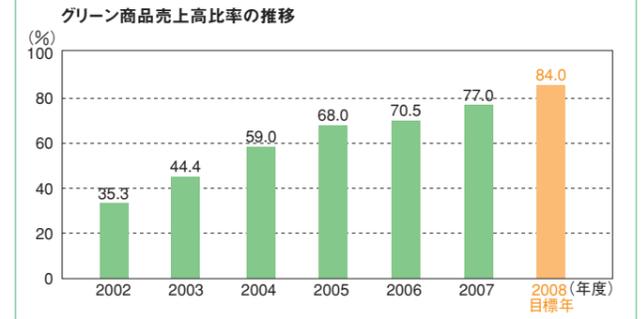
カシオは製品の小型化によって、製品の環境負荷を小さくしてきました。最初の計算機「14-A」は重量が140kgありましたが、計算回路をLSI化した「カシオミニ」では315gとなり、カードサイズ電卓「SL-800」では「14-A」の1万分の1以下の12gにまで小型化。他の分野でも、高機能な製品をより小さくして、使う資源の量を減らし、輸送エネルギーも削減してきました。

製品の消費電力も、回路技術の改良の積み重ねによって、大きく低減させてきました。家庭用100V電源で動いていた「14-A」が、「カシオミニ」では電池駆動となり、「SL-800」ではソーラー駆動に。「SL-800」の消費電力はわずか0.02mWで、これは「14-A」の1500万分の1に相当します。



■「カシオグリーン商品」の売上比率目標を達成

2001年度より、カシオは環境配慮型商品づくり促進のため「カシオグリーンプロダクツ(C.G.P.)活動」を開始。新商品を対象に環境への影響を事前評価する製品環境アセスメントの結果をもとに、環境適合基準を満たした商品を「カシオグリーン商品」として認定し、2008年度までに「カシオグリーン商品」売上比率を80%にする目標を掲げました。そして目標年度の2008年度には、売上比率が目標を超える84%に達しました。



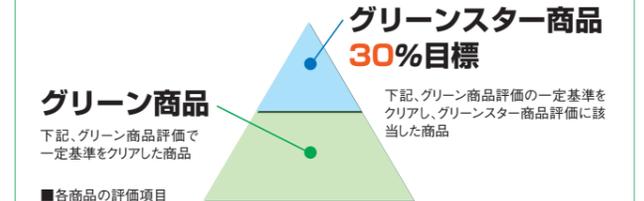
■カシオグリーンスター商品

2009年度からの新たな目標として「カシオグリーン商品」の中から、特に環境配慮性の高い商品を「カシオグリーンスター商品」と認定する取り組みを制定しました。商品のライフサイクルごとの環境側面に対して、グリーンスター商品の判定基準となる高いハードルを設定し、そこに挑戦していくことで全体のレベルアップを図る狙いです。2010年度から本格的な運用を開始し、2012年度までに「カシオグリーンスター商品」の売上比率を30%とすることを掲げました。認定した製品には環境配慮型商品の証として、グリーンスターマークを表示します。

カシオグリーンスター商品の商品化率

2009年度に認定されたカシオグリーンスター商品の、全商品に占める比率は15.8%となりました。

カシオグリーンスターコンセプトイメージ図



グリーン商品評価	グリーンスター商品評価
1.再資源化の促進(材料表示)	1.使用時の消費電力を20%以上削減
2.リサイクル設計	2.太陽電池使用とエコマーク取得
3.単一素材部品への分離	3.太陽電池使用
4.再資源化の向上	4.10年バッテリー搭載
5.資源の減容化	5.本体体積で20%以上削減
6.資源の減量化	6.重量で20%以上削減
7.省エネ化	7.個装箱の小型化による積載率で20%以上削減
8.化学物質の使用規制	8.再生プラスチック総重量比30%以上使用
9.電池の再資源化	9.バイオプラスチックを25%以上使用
10.電池のリサイクル表示	10.特定有害化学物質廃止(塩ビ)
11.法規制準拠	11.LCA環境影響評価で従来比10%以上の改善
12.単一分別・分解	12.製品環境効率で従来比10%以上の改善
13.梱包材の使用規制	13.環境性能を著しく貢献する機能など
14.自然環境保護	14.IT化による資源の削減に貢献できる機能
●100点満点中90点以上	●グリーン商品基準を満たし、上記項目に該当ありの場合

※ただし、一部品目でカシオグリーンスター認定基準に変動あり。
 ※環境の変化に伴い定期的に基準を見直します。

根付かせたい環境配慮型の設計思想

各国の環境法規制に適合させることは当然ですが、カシオとしてのより厳しい社内基準を定めることで、高度な環境配慮型の設計思想を根付かせたい。既に省電力など究極に近い製品も多いのですが、これ以上は無理という常識を打ち破るのがカシオの伝統。私たちが環境の先駆者的な存在として輝かなければいけない。そのような想いを込めて制定したのがグリーンスター商品なのです。

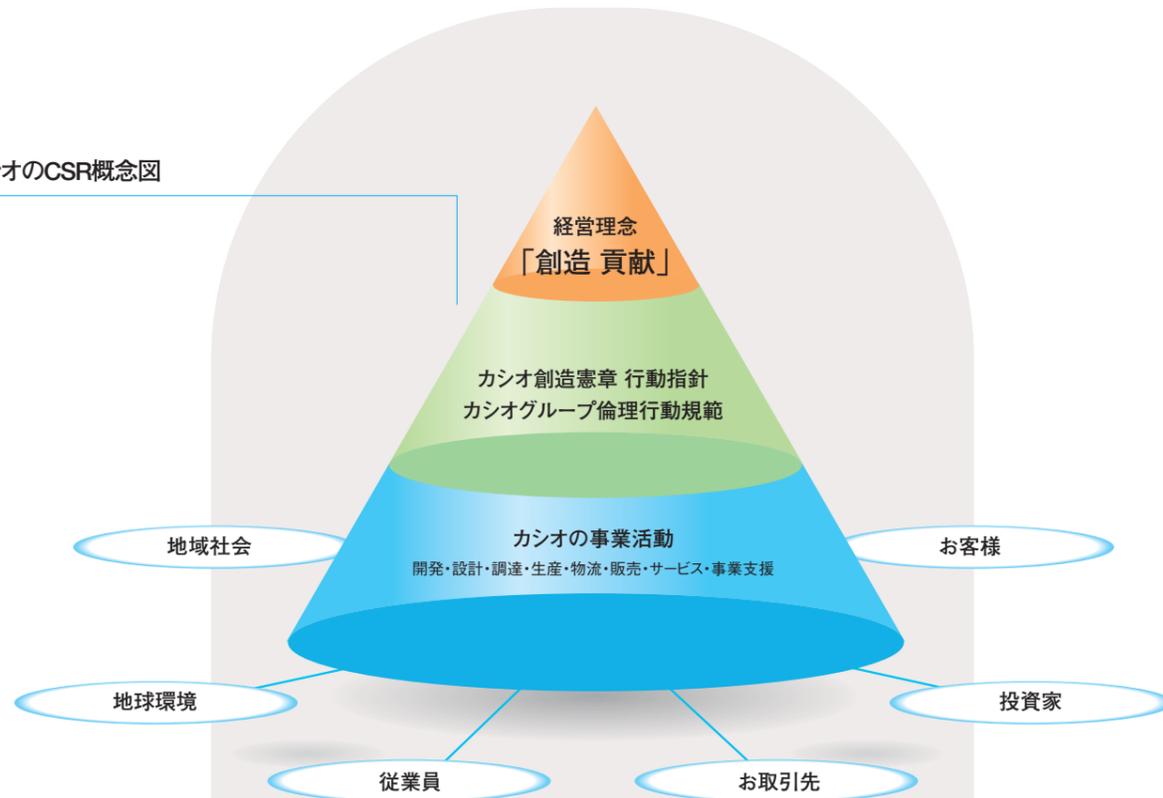


環境センター 相川 佳昭

カシオのCSRとマネジメント

カシオのCSRは、「カシオ創造憲章」とこれを具体化した「行動指針」を実践し、事業活動を通じて経営理念を実現することです。

■カシオのCSR概念図



カシオの経営理念は、それまでにない斬新な働きをもった製品を提供することで社会に貢献するという事を意味しています。すなわち“事業を通じた社会貢献”を明確にうたっており、この考えは現在のCSRの概念に通じています。

さらに、2003年には、この経営理念を常に従業員が意識して実践するために、カシオで仕事を進めるすべての人の誓いとして、「カシオ創造憲章」を定めました。ここにはCSRの3つの側面（経済・環境・社会）とコンプライアンスに対する考え方が包含されています。

■CSR推進体制

カシオでは、2004年12月より推進している、社長を委員長、取締役・監査役を構成メンバーとするトップダウンによるCSR委員会の運営を、2010年度からはCSR担当役員を委員長とし、スタッフ部門管掌役員・各スタッフ部門長・監査役を構成メンバーとする運営に改めました。これは、社会

■カシオ創造憲章

- 第1章 私たちは、独創性を大切に、普遍性のある必要を創造[※]します。
- 第2章 私たちは、社会に役立ち、人々に喜びと感動を提供します。
- 第3章 私たちは、プロフェッショナルとして、常に誠実で責任ある言動を貫きます。

※ 普遍性のある必要を創造：誰にとっても必要でありながら、まだ世の中になかったものを、新たに生み出すこと。これは製品開発のみならず、全ての業務においてカシオが追求すべきものです。

からの要請をカシオの各部門が自らの課題として検討し、推進テーマを決定する方法で、CSRの課題を見える化するとともに、各部門の主体的な取り組みを活かしたボトムアップによるCSRの推進体制ということができます。

■コーポレート・ガバナンス

カシオは、経営目標を確実に達成して競争力を強化し、企業価値を継続的に高めていくために、迅速な意思決定や適切な業務遂行、さらに経営の健全性と透明性を高める経営監視機能を強化しています。コーポレート・ガバナンスの充実に向け、さまざまな取り組みを実施しています。（取締役12名、監査役3名<うち社外監査役2名>2010年3月31日現在）

■コンプライアンス&リスクマネジメント

従業員の行動の“礎”となる「カシオグループ倫理行動規範」、リスクマネジメント、公益通報ホットラインの仕組みを三位一体として運営し、コンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

カシオグループ倫理行動規範

カシオでは、役員および従業員の一人ひとりが倫理・法令を遵守し、業務遂行上はもとより、日常活動においても良識ある社会人として行動するため、カシオ従業員の内外に対する約束事項として、「カシオグループ倫理行動規範」を定めています。全世界のグループ会社を適用範囲とするために、和文、英文をはじめ、必要に応じて海外の現地語に翻訳され、役員・従業員の行動の“礎”となっています。

また、規範の内容を周知するために、カシオグループを対象にしたコンプライアンスに関する教育も実施しています。

リスクマネジメント

カシオは「リスク管理基本方針」に基づき、リスク管理を効率的に実施するリスク管理システムを構築しています。

最高リスク管理責任者は、リスク管理委員会の委員長を務め、リスク管理について課題となるテーマの選定や審議、決定を行います。

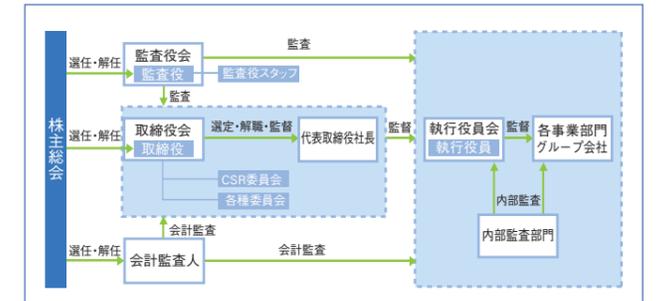
選定されたテーマに対して、リスク管理主管部門がリスク対策を実施しています。また、リスク管理委員会事務局は、各種会議の実施とリスク管理活動の進捗管理などを推進しています。

監査部門は、このリスク管理活動とは独立した監査を実施しています。

公益通報ホットライン

コンプライアンスを担保する活動として、2006年4月に「公益通報ホットライン」を立ち上げて以来、カシオは内外に設置した窓口機能を通じて、中立で公正な対応を図っています。

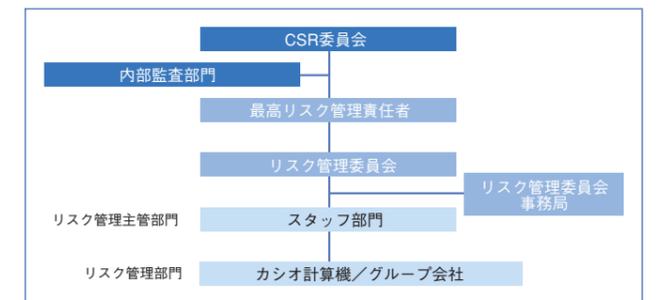
コーポレート・ガバナンス体制



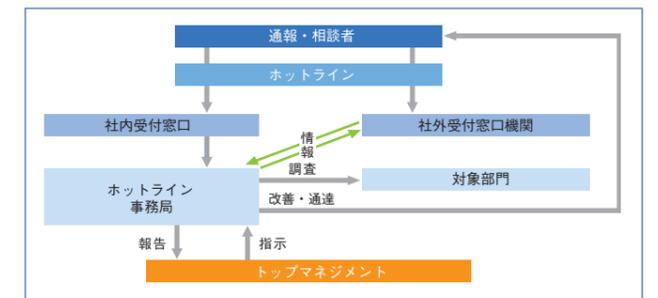
倫理行動規範の項目

- ・ 倫理・法令の遵守
- ・ 人権の尊重
- ・ お客様への安全・安心の提供
- ・ 公正な競争と取引
- ・ 公私の区別
- ・ 情報の保護
- ・ 環境の保全
- ・ 企業情報の開示
- ・ 社会的秩序の維持
- ・ 社会貢献活動

リスク管理体制



公益通報ホットラインの設置



■カシオのCSRへの評価

2010年6月現在、カシオ計算機は、CSRに取り組むその姿勢を高く評価され、「モーニングスター社会的責任投資株価指数」に組み入れられています。また、2009年3月より「DJSI Asia Pacific Indexes」にも新たに組み入れられました。



■情報セキュリティ

カシオ計算機は、お客様の情報をはじめとした、業務上お預かりする個人情報を安全・適正に取り扱う上で2005年12月からプライバシーマーク[※]を取得しています。

※ プライバシーマーク：個人情報の取り扱いについて、適切な保護措置を講じる体制を整備している事業者に対して財団法人日本情報処理開発協会が評価・認定し、プライバシーマークを付与し、その使用を許諾する制度。



人の力を伸ばす環境づくり

カシオは、社員を大切に育て、実力ある人が力を発揮できるよう、仕組みを整えています。



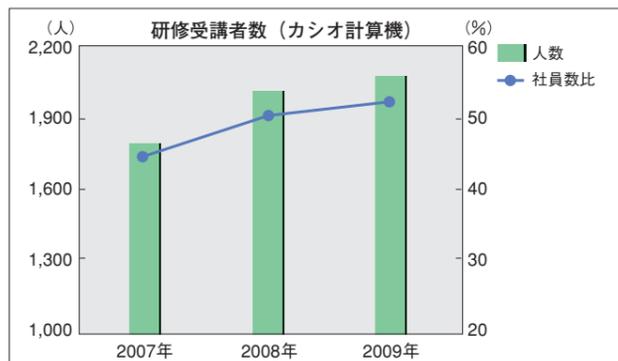
地域社会とともに歩むタイの職場環境

カシオタイは、タイの労働省が主催する「労使関係・福利厚生における優良企業賞」を2006年度から4年連続で受賞しています。この賞は、労働法の遵守、労働組合や従業員との良好な関係、福利厚生などの側面から、雇用体制が優れている企業に与えられる

ものです。従業員はほとんどが現地住民のカシオタイは、日頃から近隣のイベントに参加するなど、地域社会への貢献活動も積極的に行い、地域に根差したグループ企業です。2009年度は、労働環境以外に、孤児院や病院への寄付、近隣学校のイベント支援なども高く評価され、受賞につながりました。

充実した社員教育

カシオでは挑戦の意志溢れる人材の育成に積極的に取り組んでいます。充実した社内のキャリア育成制度は、社員の目指すキャリアに合わせた選択可能な制度を多数用意し、さまざまな挑戦を可能にしています。



新入社員研修／フォロー研修／キャリア開発研修

若年層社員向けの各階層別研修であり、カシオ社員としての基礎を学ぶ場であるとともに、自己のキャリア方向性を考える機会として、入社時・1年後・3年後にそれぞれ実施しています。

スキル選択型研修

一般社員全般を対象として、業務遂行に必要な多様なスキルを効果的かつ効率的に体得することを目的として制定したもので、さまざまな研修コースから必要なものを選択して受講できる研修体系です。

先端技術セミナー

主に技術者に対して、革新的な製品開発・事業創造を成し遂げた他社インベーターの事例講演を通じ、先端技術動向やトレンドの理解と、開発マインドの高揚・挑戦意欲の醸成を目的とした社内セミナーです。

ワークライフバランス

カシオでは、多様なライフスタイルやライフステージに応じた希望を実現できる職場作りを努めています。従業員の声を参考にしながら育児や介護などの家庭の事情や女性の就業にも配慮した支援制度の充実に取り組んでいます。カシオ計算機では、出産を機に育児休業を取得する女性従業員は、2006年からの3年間で9割を超えています。

また、働き方の見直しと生産性向上を目的に「時間外ゼロ運動」も実施しています。

次世代認証マーク（愛称「くるみん」）※

※厚生労働省から仕事と家庭の両立を積極的に支援する企業に与えられる。



多様な人材が活躍できる職場づくり

社員がより一層の力を発揮できる環境の整備や仕組みの構築を進めることにより、より多くのプロフェッショナルな社員を育成し、ひいては会社全体の生産性向上を目指しています。その取り組みの一環として、2008年4月より「女性活躍促進ワーキンググループ」を設置し、女性社員のさらなる活躍促進、そして働きがいのある会社の実現に向けて、積極的な活動を進めています。

障害をお持ちの方でも、一人ひとりの能力・適性を最大限に発揮できるよう、環境整備を進め、積極的に採用しています。

また、高齢者雇用への取り組みとして、定年退職する従業員に対する就業機会の提供と蓄積したスキル・ノウハウのグループ内有効活用を目的として「カシオ・シニアスタッフ・プログラム」、「シニア社員制度」を国内の全グループで導入しています。

役割/成果主義に基づく人事制度

カシオの人事制度体系は「格付制度」「評価制度」「処遇制度」の3つから成り立っています。

「格付制度」は人事制度のベースです。昇格に向けて研修や面接などを実施し、十分な育成機会としています。

「評価制度」は、目標管理による目標達成度評価、職種別の仕事ぶり評価、部門への貢献度評価の観点から5段階評価を行い、上司との面談による納得性の高い運用に努めています。

「処遇制度」は競争力のある給与を方針にしています。家族や住居などへの手当を基本給に組み込むことで「役割/成果主義」を徹底しています。



女性活躍促進ワーキンググループ活動

社員の健康を増進する

健康管理活動

定期健康診断でも法定項目以外に、健康保持、生活習慣病予防のための項目を多数追加しています。主要事業所に産業医を増員・配置し、定期健診後の保健指導など、きめ細やかな健康管理活動を展開しています。

ウォーキングキャンペーン

生活習慣病予防として「運動」と「食生活」に焦点をあて、秋には「ウォーキングキャンペーン」を各地で実施。2009年度は3,516名が参加しました。従業員の家族も含めて、運動による健康増進の機会を提供しています。

健康応援フェア

社員食堂では、カロリー・栄養バランスを考慮した「ヘルシーメニュー」を随時提供する健康応援フェア（ウェルネスフェア）を開催しています。メニューに関する方針は各事業所の社員や医療スタッフなどで構成される「食堂会議」で決められています。



ヘルシーメニュー

カシオグループの社会貢献

次世代教育や地域社会活動など5つの重点分野を特定し、健全で心豊かな社会づくりを目指して、さまざまな社会貢献活動を行っています。



■山形さくらんぼマラソンに協賛

山形 カシオは、「企業活動だけでなく、地元・東根市への地域貢献を通じて地域により愛される企業になろう!」と考へ、「果樹王国ひがしなざくらんぼマラソン大会」を、2004年より協賛しています。

8回目となる2009年の大会では、協賛企業として賞品提供や販売ブースの出店を行い、従業員約40名がランナーや応援団、沿道整理ボランティアとして参加しました。

地域の人々との協力関係や信頼関係をより深く形成していくため、今後こうした地域貢献活動を積極的に行っていきます。



■次世代を担う子供たちへ

カシオでは、小学校などの依頼を受けて、従業員が学校に訪問する出前授業や、工場などの施設見学受け入れを行っています。

出前授業のプログラムは大きく分けて3部構成で、命の大切さを学ぶもの、電卓の分解・組み立て体験によるモノづくり、そして地球環境問題についての授業があります。子供たちが自ら考え、気づくことで、豊かな心を育んでもらうことを意図しています。

また、最新の環境配慮型施設である八王子技術センターでは、地元小学校からの見学も受け入れています。



次世代の子供たちに、健全で優しい心を育んでもらいたい。

何故、命なのか、とよく聞かれます。安心安全なモノづくり、すべての生命をつくる環境に配慮するといったことは、命を大切にすることにつながると考えるからです。

この活動を通して、人を思いやる心、モノを大切にする気持ち、環境保護に取り組む意識など、子供たちには心の豊かさを大切にすることを伝えたいと思っています。



CSR推進室 若尾 久

■「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」支援

カシオは、1994年に日本で開催された「第4回国際イルカ・クジラ会議」より、G-SHOCKとBaby-Gの協賛モデルを販売し、売上金の一部を「アイサーチ・ジャパン(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)※1」に寄付することで、世界各地のイルカ・クジラに関する教育・研究活動を支援してきました。

2009年 は、「Love the Sea And the Earth」というテーマのもと、「イルカ・クジラモデル」でサポートを続けてきた「アイサーチ・ジャパン」に加え、環境の保全・研究を支援している「アースウォッチ※2」の2つの団体支援をするため、海・生物・植物をイメージしたG-SHOCKとBaby-G計4モデルをラインアップし、その売上げの一部を寄付することで、当団体を支援しました。



※1: アイサーチ・ジャパン(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター) 1991年に設立され、イルカ・クジラと自然の素晴らしさを伝える活動に取り組んでいる非営利団体です。

※2: アースウォッチ(EARTHWATCH) 1971年にアメリカ・ボストンにて設立。世界各地で行われている気候変動や野生生物・生態系など環境保全研究の地道な野外調査を支援している国際NGOです。

■中国で日本学研究修士論文コンテストに協賛

カシオ上海は、2009年度も引き続き、中国教育部大学外国語専門教学指導委員会日本語分会、中国日本語教学研究会、および北京日本学研究センターが共同主催する、中国で唯一の日本学研究修士論文コンテストに協賛しました。

同コンテストは、中国の各大学間の交流を促進し、中国における日本学研究を深め、さらなる優秀な日本学研究の人材を育成することを目的としています。電子辞書メーカーであるカシオグループは、これを積極的に支援すべく、同コンテストの名称を「カシオ杯」として開催しています。



■カシオ科学振興財団への支援

カシオグループは「カシオ科学振興財団」への支援活動を通じて、科学技術の発展に貢献しています。

カシオ科学振興財団

1982年にカシオ計算機の創立メンバーである櫻尾茂前会長と櫻尾4兄弟によって設立されました。わが国が技術先進国として世界に貢献するという使命を果たすには、高度な研究開発がさまざまな分野で進められるべきであるとの理念のもと、特に限られた研究費で困難な研究を続けている若手研究者による、萌芽的な段階にある先駆的かつ独創的研究を主眼として、研究助成活動を展開しています。



■会社概要 (2010年3月31日現在/2010年3月期)

商号: カシオ計算機株式会社
 英文商号: CASIO COMPUTER CO., LTD.
 本社: 〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2
 設立: 1957(昭和32)年6月1日
 社長: 櫻尾 和雄
 従業員数: 2,869名(連結:12,247名)
 資本金: 48,592百万円
 売上高: 427,925百万円(連結)
 営業利益: ▲29,309百万円(連結)
 経常利益: ▲25,082百万円(連結)
 当期純利益: ▲20,968百万円(連結)

■カシオ ホームページ

<http://casio.jp>